

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093700070		
法人名	社会福祉法人 グリーンコープ		
事業所名	グループホーム那珂川・和(のどか)		
所在地	福岡県那珂川市片縄北3丁目16番18号		
自己評価作成日	令和5年 12月29日	評価結果確定日	令和6年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和6年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○社会福祉法人グリーンコープは「共に生きる」を基本理念として、赤ちゃんからお年寄りまで、地域で暮らしているすべての人が、共に支えあい、育みあい、心豊かにその人らしく尊厳を持って暮らせる地域社会の実現を目指しています。○日々替わる利用者さんの対応は、迅速に手順書やミーティングで情報共有する事を心掛けています。○利用者6名の内、入院や延命治療をせず最後までのだかで過ごしたいと施設での看取りを希望されている利用者さんが現在1名おられます。医療・家族・施設が連携、状態に応じた食事形態や昼夜の過ごし方等話し合っています。○90代3名、80代3名、平均年齢は88.3歳です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

掲げているケア理念や介護の基本ケアを、当たり前のこととしてその日その都度ケアを話し合い、職場会議で振り返りを行っている。家族と共に本人を支えたいと日々のエピソードをそのまま伝え、家族と病状を共有しながら適切な受診を支援しているが、中にはかかりつけ医とラインで繋がっている家族もある。昨年は白寿の方を含め、その人らしい生活を支援した2名の方を見送り、誤嚥性肺炎で入院を勧められるがホームでの看取りを希望される家族もある。ふくしセンター那珂川として11月に再開したバザーには地域の方々からバザー出品の提供や販売などに協力を受け、運営推進会議では参加者から地域情報の提供や花壇の整備に協力したいとの声が上がっている。この度、地震被災地や系列事業所の情報を得るためにふくしセンター長や職員が現地へ赴くなど、法人理念の「共に生きる」支援に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グリーンコープグループホーム那珂川・和(のどか)**

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○職員全員グリーンコープの組合員です。○『共に生きる』を基本に、人権・接遇についてはその都度、気づいた時に、朝のミーティングで話し合うようにしています。○基本理念は職場会議等で定期的に読みあわせをしています。	掲げているケア理念や介護の基本ケアを当たり前のこととして、その日その都度ケアを話し合い、職場会議で振り返りをしている。この度、ふくしセンター長や職員が地震に被災地や系列事業所の情報を得るために現地に赴くなど、法人理念の「共に生きる」支援に邁進している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域自治会に加入し、行事に参加しています。開催された避難訓練、町内草取りに参加しました。コロナ後4年ぶりにのどか開催のバザーをしました。	自治会主催の避難訓練に入居者と参加している。ふくしセンター那珂川として11月に再開したバザーには地域の方々からバザー出品の提供や販売などに協力を受け、厨房手作りの惣菜は早々に完売するなど盛況であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議はソーシャルディスタンスを考えた時短で開催。○組合員さんの体験見学、中学生の職場体験も要請があれば受ける予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○同じ施設内の小規模と一緒に運営推進会議を開催しています。利用者さんがどんな暮らしを望まれ、今現在どんな暮らしをされているか率直に話かできています。その際頂いた貴重な意見は職場会議などで共有しています。	運営推進会議は元家族や地域代表の自治会長、民生委員など10名ほどの参加で、利用者帰宅後の小規模事業所で開催し、会議録を整備している。参加者から地域情報の提供や花壇の整備に協力したいとの声が上がっている。	ホーム便りや開催を検討されている家族の集まりなどで、家族に運営推進会議録の公表を周知し、会議の参加や意見の表出を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○市の「協議体」「認知症サポーター養成講座」に積極的に協力参加しています。	市の紹介や声かけで、小規模やホームの見学者が来訪したり、ふくしセンターの訪問介護や小規模多機能が障がい者支援事業に参入している。昨年は市の認知症サポーター養成用DVDに職員が出演し、今回は寸劇への出演依頼を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○玄関・部屋の鍵はかけていません。○離床センサー・ベット柵を設置する場合、家族に同意書を頂いています。○職員のストレスが身体拘束に繋がることから、朝のミーティングや職場会議でケアについて話をしています。	毎月の職員会議で身体拘束の具体的内容を周知し、適切なケアに取り組んでいる。今月は外部講師によるアンガーマネジメントオンライン研修を予定している。運営推進会議で身体拘束適正化について報告し、参加者から安全を重視するために離床センサーやベット柵をもっと活用してはとの意見があった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待防止マニュアルを作成し読みあわせを行い研修しています。○夜勤の職員のストレスが蓄積されないように話を聴く等の対策をしています。		

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○現在は、成年後見制度を利用されている方はいません ○必要に応じて、相談いただけるような関係は構築しています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、其々の内容やその違いを理解し、状況に応じて紹介するために、パンフレットなどの資料を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○疑問点や不安に思われることは率直にご相談していただけるよう、日ごろから関係の構築を心がけています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○玄関を入ったところに意見箱を置いています。 ○運営推進会議・家族のあつまりなど開催時、家族の意見を話しやすいようにしています。会議の報告を職場会議・ミーティングで共有しています。	家族面会時に暮らしぶりを報告したり、ラインで時には写真貼付で状況を報告し、意見の表出を促している。恒例のドライブの折の写真が掲載されたふくしセンター便りも発行されているが、特段の意見はない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○自分たちで『出資・自己管理・運営』している事の確認をして、意識向上を図っています。 ○毎月の職場会議等で業務改善について意見交換をして、職員の気付きを大切にしながら話し合っています。	職員会議で介護負担の軽減として包布型シーツ活用の提案があり、家族の了解を得たいと管理者は話している。「行けるなら行きたい」と話す被災県出身の職員などを、被災県からの要請を待って法人として派遣する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○毎年、働き方アンケート、ストレスアンケートなど行い、面接を行っています。 ○体制加算・処遇改善加算を申請し、それに伴いキャリアパスを明確にし、研修計画を作成しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○主催する初任者研修受講生や募集チラシを作成し、広く公募をしています。○問い合わせについては面接⇒試用期間を経て、採用しています。 ○働き方については、採用時・面接時に聞き取りを行い、ライフスタイルに合わせた働き方を尊重しています。○コロナに配慮しながら行政に則ってジョブカレッジより3名の研修生を受け入れました。	30代～70代の職員が厨房や夜勤のみなど、夫々のライフスタイルに合わせて勤務し、夜勤者への慰労の声かけやコーヒータイムが継続している。逝去した祖母が階下の小規模多機能利用者だったことがきっかけで入職した最年少の職員は、グループホームだけではなく、センターの小規模多機能や訪問介護にも就労でき、チームの一員として話し合え、働き易いと話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○職員・利用者の気づきに対し、職場会議で接遇・言葉遣いなど再確認しています。基本の接遇と、個別性と応用について意見交換しています。	「笑顔を大切にします」や「ことばを大切にします」などの基本ケアを実践している。運営規程や契約書、重要事項説明書に新規に虐待防止措置やハラスメント対策項目設け、入居者だけでなく職員の人権擁護に取り組んでいる。	

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○研修は事業所の年間計画・個人の年間計画を作成し、目標を立て行っています。○ケアリーダー会議の内容は毎月の職場会議で研修として共有、職場全体でスキルアップを図れるようにしています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	○市内の施設系の協議会に参加しています。 ○県内の同列の施設で毎年、研修を開催し、意見交換を行い、交流も深めています。 ○管理者は管理者会議も毎月開催されています。今年度は半分がリモートでした。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○まず、利用者さんが話しやすい環境や話のきっかけを声掛けしながら作り、傾聴することから始めるようにしています。(アセスメント) ○一番大切な信頼関係構築のために、これまでの生活習慣を尊重しながらアセスメントを取り対応しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○今年度も小規模からの移行が2件ありました。ご家族とも落ち着いた関係が保てています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○本人や家族が心配されていることを把握、柔軟に対応するために他のサービス利用も含めて必要な支援を、話し合いをしながらすすめる必要があると考えます。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○『共に過ごし学び支えあう』を基本に、その人の生きてきた人生に寄り添い、一緒に泣いたり笑ったりしながら、時間と空間を共有するよう努めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○個性があるので、利用者さんがその家族と今までどんな関係だったのか、どんな関係が良いのか、アセスメントをとりながら対応しています。 ○家族が日頃から意見・要望が言える環境、雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○元の地域の老人会定例会への参加声掛けや馴染みの美容室やクリニックへの送迎など家族と相談しながら対応しています。 ○地域で行われる行事(夏祭りや餅つき)には、積極的に参加しています。	面会は予約をお願いしているが、居室でゆっくりと過ごしていただき、家族との美容院や受診の外出を支援している。家族と携帯電話で話す入居者には充電を支援し、「(家族に電話が)繋がらない」には安心できる声かけで、家族と共に本人を支えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○個性を大事にしながらも、縁があって衣食住を共にしている関りの中で、一緒に笑ったり感動したり時には我慢せずに小競りもできる雰囲気大事にしています ○自室にこもりがちの男性には、フロアでの食事の声掛けや気候のいい時はドライブにもお誘いし		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○サービスが終了されても、運営推進会議のメンバーとして参加して頂きご意見を頂いたり関係性を継続。魚釣りに行かれ魚を持ってきてくださる方、お祭りに来てくださる方、ほかの家族の相談にみえる方などあります。○バザーへの参加や寄付などもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○その人が今までどのような暮らしをされていたのか、アセスを本人・家族からとる様にしています。○食事を自室で召し上がる方もあります。○新聞を取られている方が1名。テレビを置かれている方は3名。(日常的にみられている方は1名)	階下やサテライトの小規模多機能からの入居者が殆どで、個々の生活歴や家族構成などを全職員が把握し、ケア理念のその人らしい生き方を支援している。「うちの利用者さんは注文が多い」と笑顔で話す職員から、日々の対応が伺える。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ライフサポートプランを導入しています。 ○夜勤時など一緒にテレビを見ながら昔話を聞いたり、毎年1回担当を決め「私の暮らし方シート」を作成しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○主治医・家族との連携で病歴などの把握に努めています。○バイタル・水分・排泄・体重等観察は密にしています。排便に関しては特に気をつけています。○1日の過ごし方はライフサポートプランを活用し、心身の状態、有する力に変化があれば都度検討しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○ライフサポートプランを使用しています。 ○支援に関しては、本人・家族がどんな暮らしを望まれているか、意向を反映できるように努めています。 ○家族の面会時や職場会議等でもその人らしく暮らすための課題を話し合っています。	家族にもケアに参加していただきたいと日々のエピソードをそのまま伝え、メモ書きしたケア内容を職員間で共有しながら、現状に即したケアが展開している。「お金がない」には安心できる声かけを励行し、「トイレぐらい自分で行ける」との思いを支援している。	その人らしい暮らしを支援するために、日々実践している転倒や誤嚥などのリスクを回避するケアを組み入れた計画の作成を期待します。

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○個人の提供記録に短期目標を明記、その日の様子や気づきを記録、報告し、介護計画の達成や見直しに活かしています。 ○利用者の日々変化する対応には手順書を作成、職員間の情報の共有をしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○その人の生活に合わせた個別ケアができるように支援しています。(外出・食事・美容など)特に食事に関しては、その方の状態に応じて、食事形態等を主治医・専門医・家族・職員・食事担当職員と相談、柔軟に対応できています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○その人が住んでいた地域との関係を大切にしながらの暮らしが継続できるように支援しています。 ○病院(かかりつけ医)シニアクラブ・美容室・地域コミュニティとの関係の継続を家族と協力しながら支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○訪問診療利用4名○家族が同行受診2名○緊急時は事業所に対応しています。通院されている2名の主治医は「最期までみたいと考えています」と言って下さっています。	家族が受診に同行したり訪問診療に同席する家族もあり、家族と病状を共有しながら適切な受診を支援している。状況を把握したいとかかりつけ医に直に電話をしていた家族はその後かかりつけ医とラインで繋がっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師も共に働く仲間として報告・連絡・相談できる関係にあります。身体状況の変化について、共有し、必要に応じて家族・医療に連絡し異常の早期発見に努めています。○夜間、緊急時も看護師に相談できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入退院時は必ず、職員が同行します。○入院時も状況把握のため病院訪問を行い、退院に備えます。○退院時には必ずカンファレンスに参加し、情報交換をしています ○病院ソーシャルワーカーとは相談できる関係づくりに努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○入所時に左記の内容について説明し本人・家族の意向についてお聞きし、同意書を頂いています。 ○現在1名の方が急変時入院はせず、当施設での看取りを希望されています。	昨年は白寿の方を含め、その人らしい生活を支援した2名の方を見送っている。誤嚥性肺炎で入院を勧められるが、以前検査ができず受診を断られた経緯があるため、「何があっても処置は必要ない」とホームでの看取りを希望される家族もある。今後もかかりつけ医や看護職員と連携し、看取りを支援する予定である。	

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○研修計画に沿って心肺蘇生・AEDの研修をしています。 ○身体状況については、その都度医師・看護師からの状況説明を共有し対応について学習、利用者さんがより安心できるケアを心がけています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年に2回、消火・通報・避難訓練を行っています。 ○研修計画に沿って研修も実施しています。 ○運営推進会議でも議題に上がり、協力体制はできています。アドバイスも頂いています。	地域の避難訓練や行事の参加、運営推進会議で協力体制を構築し、年2回階下の小規模事業所と合同で避難訓練を実施している。感染症や自然災害発生時の事業継続計画は策定しているが、市担当者から災害時の地域の福祉避難施設としての備蓄の整備が求められている。	策定したBCPの研修やシュミレーションの実施とともに、備蓄の規模がより具体的にBCPの更新を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○研修計画に沿って研修をしています。 ○接遇や人権については毎月の職場会議などでもよく話し合っています。「その人に寄り添い、受け止め、大きな声を出さない。適度な距離感を持ち、言葉は丁寧語。」基本に戻ることを職員間で確認しています。	○さんと穏やかな声かけや対応を実践している。介助した食事にむせる入居者の背中をさする職員に「ごめんね」と謝る入居者の姿から、「共に過ごし学び支え合う」ケアが伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○その人の個性が引き出せる施設となるために、寄り添う事を基本に『個別ケア』『待つケア』を心がけて、思いや希望が表現できるような声掛けを実践しています ○気兼ねない空間として、最近では、利用者同士の関係づくりを基本に考えるようにしています。部屋に入られても「寂しかぁー」と出て来られる方もおられます。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○決まったタイムスケジュールはなく、その人の生活に添った支援ができるようにしています。○起きる時間も寝る時間もまちまちです。○好き嫌いにもできるだけ添えるようにしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○洋服、ご自分で決められる方は2名 ○行きつけの美容室に行かれる方1名、床屋 1名 ○有償ボランティアでの美容は4名		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○グリーンコープの新鮮で安心な食材が中心です。 ○お茶碗を拭いてくださる方が2名あります。その内1名は洗ってくださいます。気分の乗らない時は無理はされないように配慮しています。	基本ケアの「食べることを大切にします」と嚥下や咀嚼に応じた食形の食事を用意し、座位保持用具の活用もあるが食卓用の椅子に座り箸を使って夫々のペースで食事をする入居者が殆どである。ご飯が「硬い」や「柔らかくてべちゃべちゃして食べられない」など注文は多いが、厨房で調理された食事はほぼ完食となり、元家族から差し入れられた釣り成果に舌鼓をうっている。	

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事は1500kcal水分700mlを基準とし、利用者さんの状況によって、量・食事形態(おかゆや刻み食・トロミ食等)にもすぐに対応できています。 ○水分をとって頂く工夫もしています(手作りゼリー・緑茶)○食担の職員は食の研修を率先して受講しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○その方の状況に応じて衛生士さん指導のもと口腔ケアを行っています。 ○訪問歯科を利用して定期的にケアをされている方もいます。 ○毎食後、就寝前の清掃・入れ歯殺菌を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	○ご自分でトイレに行かれる方は3名。○尿漏れ等で、リハビリパンツの方が5名(尿意便意がある方含む)○定期的に誘導を行い、トイレでの排泄を促す支援をしています。○定期的にトイレに行きパット交換やウォシュレットやホットタオルでの清拭をしています。	夫々の排泄パターンに沿ってトイレでの排泄を支援している。自室はいざって移動する歩行が不安定な入居者にはトイレに同行したり、夜間の頻尿はベット傍に設置したポータブルトイレ使用を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○ご自分でトイレに行かれる方は3名。○尿漏れ等で、リハビリパンツの方が6名(尿意便意がある方含む)○定期的に誘導を行い、トイレでの排泄を促す支援をしています。○定期的にトイレに行きパット交換やウォシュレットやホットタオルでの清拭をしています。朝の牛乳を飲んで頂いています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	○入浴は1人づつ入って頂いています。○最低週2回としていますが、状況に合わせて入って頂いています。○入浴の際、ご自分でできることは尊重しながら、気持ちよく入って頂けるように配慮、声かけしています。	希望に応じて浴槽に浸っていただくなど、入浴を楽しめるように支援している。入浴を億劫がる方には「先生(医師)の診察がある」などと声かけを工夫し入浴を促している。入浴は皮膚状態を把握する好機となり、状態に応じて医療受診に繋げている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○起床・就寝の時間は、決めていません。 ○自身の部屋を中心に過ごされる方は1名です。 ○眠剤服用される方は1名ですが、飲まずに休まれることもあります。○みなさん2Fフロアで過ごされています。状況により1Fデイサービスへの参加も開始しました。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○受診時・往診時は、同席し様子の報告や薬の把握に努めています。○薬の管理は基本看護師の仕事とし、作用・副作用について、学習しています。○正確な服薬支援のため確認・声かけを重ねて行い、誤薬の予防に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○外出することで気分転換になるドライブは、皆さん楽しみにして下さっていますので、状況を見て小規模の方と一緒に出かけ頂いています。○洗濯物たたみ、食器拭き、玉ねぎの皮むきなど出来る事はしていただいています。		

自己	外部	nodoka	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	00	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○家族がみえて外出される方が1名○家族と病院に行かれる方が2名。○ドライブに行かれる方6名。人のいない所に状態を見ながら行きました。○家族の面会はコロナ禍、連絡の上1名15分○地域のシニアクラブの方も声を掛けて下さいます。	今年も初詣に出かけ、家族と美容院や病院に出かけたり、シニアクラブや地域行事に参加するなど、外出が日常となっている。小規模多機能利用者とのドライブは恒例となり、季節の花見のスタッフがふくしセンター便りに掲載されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○現在ご自身でお買い物をされる方はいません。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○遠方の息子さんと携帯のラインを通してビデオ通話を支援している方も1名います。 ○ご自身の携帯電話をお持ちの方1名おられます。充電等の管理はお手伝いしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○落ち着いた空間を演出できるように努めています。季節感が出るようなお花や飾り付けや絵を飾って話題づくりをしています。○臭いにも注意をし、換気や原因の除去に努めています。○冬季は乾燥に留意し、加湿用品を置いて風邪予防に努めています ○今年もコロナのためテーブルクロスはやめ、消毒を徹底しました。	玄関入口や廊下に新春を告げるろう梅や菜の花が活けられ、毎回職員が笑顔で迎えてくれる。エレベーターで2階に上がり共有空間前のカーテンを開けると、居間の食卓で入居者が穏やかに食事をされている。居間や廊下、居室の横や前にあるトイレは、空調が管理され清掃が行き届き、居心地良い場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○座る場所などはご希望を伺って決めています。ソファの位置など模様替えも行っています。○自然に座る場所が定着、お互いを尊重されている様です。○席に付かれていない方を心配される等の様子も見られます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○居室は本人・ご家族の希望で、自由に荷物を持ってきて頂いています。○ご主人の遺影や孫、ひ孫さんの写真を飾られています。○鏡台を持って来られ毎朝お化粧されてる方もいます。	居室間違いはないため表札の設置はなく、洋服かけに整然と洋服を整理したり、ベットからの滑落を防止するために低床ベットやベット下に敷くマットレス、加湿器を持込むなど、居室を設える家族が多い。中には空のベットにぬいぐるみを寝せている入居者もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○自立支援の立場から、生活リハビリを大切にしています。排泄も全員トイレで行っています。○利用者の気持ちを聴く。感じる。予想する。そして安全に自分らしく、のんびりと楽しい余生を過ごして頂くための支援をしていきます。		